

備 前 市 事 務 事 業 評 価 シ ー ト

(平成23年度事業)

事業の概要		事業開始年度		昭和46年度～		根拠法令・規程等		
総合計画	大項目	基本目標	03	地域文化と人が輝くまちづくり		問	担当課(室)	生涯学習課生涯学習係
	中項目	基本施策	02	生きがいのあるまちづくり			職・氏名	係長 杉田和也
	小項目	施策	03	成人教育			電 話	64-1841
事務事業名		03	生涯学習推進事業		このシート作成に要した時間		2.0 時間	

事業の目的		Plan	
対象(誰・何に対して)	自己実現を図るため、生涯学習全般に興味関心のある市民及び家庭教育の充実を図る為の学習意欲のある保護者や関係諸団体等。		
目的(何のために)	いつでも、どこでも、誰でも学びながら、社会の中で自己実現を図っていくため、学習機会の提供を行い、生きがいのある明るく充実した地域社会の実現を目指す。		
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	市民一人ひとりが生涯にわたる学習活動を通じて自己の人格を磨くとともに、学びの成果を生かして地域課題の解決や地域の子育てに関する取組に参加する等、個人の豊かな学びと「地域力」の形成が循環する生涯学習社会の構築を図る。		

事業の実績		Do	
目的を達成するため実施した事業	細事業名	事業の説明	優先度
	学校支援地域本部事業	地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進することにより、教員の子どもと向き合う時間の増加、住民等の学習成果の活用機会の拡充及び地域の教育力の活性化を図ることを目的とした事業。	
	人材養成講座事業	生涯学習の推進に携わるボランティアを対象に、地域におけるリーダーの人材を養成します。	
	子ども読書活動推進事業	ひぜん子ども読書ネットワークのボランティアの方を対象とした実践力向上のための研修やボランティア同士の情報交換と交流を図るとともに、その学習成果を学校園や図書館、公民館等で発揮することや「ひぜん子ども読書まつり」を開催し、備前市における子どもの読書活動の啓発推進を図ることを目的とした事業。	
	教育の日関連事業	教育に対する認識を高めるとともに、学校教育及び生涯学習の振興の気運を醸成し、その充実と発展を図ることを目的とした事業。	
	成人式運営事業	社会人になったことを自覚し、自らの努力で人生を切り拓こうとする新成人を祝い励ますことを目的として成人式を行う。	

決算額	事業費等		単位	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績
	事業費	必要人員	千円	382	390	2,205
	事業費	必要人員	千円	0.75人	0.78人	5,895
	事業費	必要人員	千円	6,162	7,093	8,100
	国	支出金	千円			1,200
	受	益者負担				
	財	源				
	市	入				
	其	他()				
	一	般	財	6,162	7,093	6,900
受	益者負担比率	%	-	-	-	
結果指標名		単位	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績	
学校支援ボランティア登録数		説明	各学校支援ボランティア(ボラ保険加入者)登録数			
結果	指標	量	167	149	312	
対	前	年	-	89.2%	209.4%	
活	動	コ	43,680	38,360	41,720	
単	位	当	262	257	134	
位	当	り				
コ	ス	ト				

事業の成果		成果指標名					年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度目標値
成人式における新成人の参加率	目標値(A)						90	90	90	85	
	実績値(B)						74	75	75	到達目標値	
	達成率(B/A)						82.22%	83.33%	83.33%	85	
成果指標設定の考え方・式や説明											
本事業の目的に迫るためには、新成人が式に参加することが第一歩となる。新成人の参加率の推移を指標として挙げることで成人式のあり方を検討することができるものと考えられる。実績値(%) = 成人式参加者数 ÷ 住民基本台帳対象者 × 100											

事務事業の評価		Check	
妥当性の評価	市の関与の妥当性の必要性	市民ニーズ	妥当性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い
効率性の評価	コスト	手段	効率性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い
有効性の評価	目的達成度	市民参画度	有効性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い

進行年度(H24年度)の改革改善内容							
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
説明	学校支援地域本部事業については、本部の数が2か所増え、3中学校、4小学校で実施される。各本部の実態に応じた事業が展開されるよう支援していく。						

総合評価		総合評価	
学校支援地域本部事業は、平成23年度から補助事業となり、実施校も3校に増えて着実に進めることができた。子ども読書活動は、官民協働による「子ども読書まつり」を開催するなど啓発活動と学習成果を発揮できる場を設けることができた。		A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い い	B

平成25年度の方向性・取組目標							
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
取組目標	規模が拡大した学校支援地域本部事業を核に市民の学習機会やその成果を発揮する場を整備し、地域の教育力の向上や活性化をめざす。						

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標を評価